

みんなちがって みんないいんだ

南 小学校 三年

わたしのクラスには、色々な人がいます。たとえば、おもしろいことをして人をわらわせる人、びょう気がちな人、足がびっくりするぐらい速い人、勉強がにがてな人、おとなしい人、色々な人がいます。

このあいだ、体育の時間にクラスのみんなで大なわをしました。その時の記ろくは、とてもひくく、なわとびがとくいなわたしは、とてもくやしい思いでいっぱいになりました。「みんながなわとびがとくいだったらよかったのに。」とわたしはつくづく思いました。

そんな時、国語の時間に、金子みすゞさんの『わたしと小鳥とすずと』という詩を学びました。その詩では、「わたし」と「小鳥」と「すず」をくらべあって、それぞれできることやできないことがあって、そのちがいがあることこそが、一人ひとりがもつよさだということを学びました。

そのことを学んで、体育の時間にした大なわのことをふり返ってみると、大なわがにが手な人にも、とくいなことはたくさんありました。大なわがにが手でも、絵がとても上手な人がいたり、字をうつくしく書くことができる人がいたり、人にとってもやさしくすることができる人がいたりすることに気づきました。大なわができなくても、それいがいにはできることがかならずあるんだなと思いました。本当に『わたしと小鳥とすずと』と同じなんだなと感じました。

だからこそ、わたしはこれから、相手のできない所や、にが手な所ばかりを見つけるのではなく、相手のよい所やとくいな所もすすんで見つけられるような人になりたいです。そして、三年生の終わりには、クラス全員のよい所を見つけれられるようになりたいです。